

地域交流活動を通しての学生の学びと課題

植木明子・濱口なぎさ・荒木正平・田川千秋

A Learning and an Issue for Students through Communal Interaction

Akiko UEKI · Nagisa HAMAGUTI · Shouhei ARAKI · Chiaki TAGAWA

キーワード：地域貢献 地域交流 地域包括ケアシステム 共同授業 多主体連携

1. 研究の背景と目的

現在、ビジネスの場面においても、福祉に関しても、「地域」との関わり抜きには考えられない時代となっており、様々な場面において「地域」がキーワードとなっている。国策においても平成26年には内閣府地方創成推進室が地域活性化の取り組みとして「超高齢化・人口減少社会における持続可能な都市・地域の形成」と「地域産業の成長・雇用の維持創出」の2つの施策を推進するなど地域との連携の再構築は重要課題として浮上してきており、今後さらにその流れは強くなっていくものと考えられる。しかしながら、現在、地域の中のつながりは弱体化し続けている。高齢世代を含む全世代において地域離れ・孤立化の問題は指摘されているが、若い世代においてはその傾向はますます顕著である。

短大においては、中央教育審議会のなかで、地域コミュニティの基盤となる人材の養成推進がうたわれている。^①地域で支え合うコミュニティづくりに関する研究・実践を進めることは、高等教育機関であり同時に実践力を伴った学びの場である本学の社会的責務であると認識している。事実、本学の卒業生の9割は長崎県内に就職しており、それぞれの地域コミュニティの中核となる人材を養成していることとなる。

このような状況から、平成26年度は本学において、地域に関する学生の理解・学習の重点化が急務であると考え、各学科で「学びを活かした地

域貢献」活動を行うこととなった。

今年度初めての試みとして、介護福祉専攻・生活総合ビジネス専攻の共同で社会人基礎力のスキルアップとともに地域包括ケアシステムの理解を深めることを目的として活動を行った。

地域包括ケアシステムについては、平成26年6月に成立した「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」において「地域の実情に応じて、高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活が営むことが出来るよう、医療、介護、介護予防（要介護状態若しくは要支援状態になることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止を言う）、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制」と定義されている。市町村では団塊の世代が後期高齢者になる2025年にむけて地域の自主性・主体性に基づき、その地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを構築していくこととなっている。

地域貢献はこれから時代を担う学生たちにとっての課題として不可欠のものであり、本学の介護福祉専攻・生活総合ビジネス専攻の学生にとっても、地域包括ケアシステムを学ぶことの意味は大きい。彼らは卒業後、自分たちがそれぞれの地域で何ができるかをより具体的に考えていくことが求められるであろう。

今回の研究は、地域貢献への自主的な取り組みによって2つの専攻の学生が何を学んだかを把握

し、地域交流活動を実践していく上での課題を明らかにすることを目的とした。

2. 地域交流活動の概要

2-1. 地域の実情を知る

長崎市小島・茂木地域包括支援センター職員による、「地域包括ケアシステムの概要と取り組みの実際について」の講義（平成26年11月7日1コマの授業）を実施。出席した介護福祉専攻（以下、Fと表記）・生活総合ビジネス専攻（以下、Lと表記）学生全員に自由記載のレポートを書かせ提出させる。

2-2. 地域交流活動の計画立案

- 10月下旬 活動についてFとLの2年生に説明。各専攻の代表者を決め、レクリエーションの詳細を話し合うこととする。
- 11月 L 2年生は、施設に掲示する交流活動のポスター作製を授業での課題とする。
- 12月1日(月) 当日のプログラム内容についてF2年生全員で話し合い。
- 12月8日(月) デイサービスの職員と学生・教員との打ち合わせ
- 12月12日(金) FとL 2年生全員で打ち合わせ
- 12月19日(金) 14時00分～15時30分 地域デイサービスセンターやケアハウス、グループホームの利用者との交流会を実施
(表1参照)
- 12月22日(月) 学生に自由記述のレポートを書かせ、アンケートを取る。

(表1) 地域交流企画の実施

| |
|-------------------------------|
| 日時：12月19日(金) 14時00分～15時30分 |
| 1 開始挨拶（5分程度） |
| 2 クリスマスカードやお正月関連の小物作り（40～45分） |
| 3 うた・フラダンス披露（30～35分） |
| 4 終了の挨拶（5分程度） |
| 【業務分担】 |
| 挨拶……………F学生（開始） |
| L学生（終了） |
| 小物作り・交流・うた……F・L学生 |
| フラダンス……………F学生 |
| ポスター作製……………L学生 |
| 司会・進行……………L学生 |

3. 研究の方法

3-1. 学生のレポート内容を分析する。

11月7日講演会後と12月19日交流会後に、それぞれレポートを書かせる。

講演会後は、「理解した事」、「感想と自己の課題」について書かせる。交流会後は、「利用者の様子についての気づき」、「交流会を通して学んだ事」、「反省点、自己の課題」について書かせる。

3-2. プログラム実施後にアンケートを取る。

今回の事業参加による学生自身の変化を、下記の項目について五段階評価（自己評価）する。

(アンケート項目)²⁾

- ・地域活動・地域福祉に対する興味関心
- ・地域活動・地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能
- ・地域活動・地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養
- ・職業や進路選択への方向付け
- ・ひとつの問題を深く探究する態度
- ・多様なものの見方を知って受け入れること
- ・社会の現実的な問題への関心
- ・一般的な常識や礼儀・マナー
- ・人とのコミュニケーション能力
- ・チームで仕事をする力
- ・リーダーシップ
- ・自分で考え、行動する力
- ・最後までやり抜いた達成感
- ・自分に対する自信
- ・表現力（文書表現力・体で表現する事）
- ・地域のことをもっと知りたいという気持ち
- ・地域にもっと関わりたいという気持ち

4. 結果

地域交流活動という形で計画し、本学周辺地域の方々と交流を行うという実践自体、これまで行われてきておらず、学生・教員双方にとって初めての試みである。そのような意味でも、今回の活動に関しては、今後、周辺地域住民と長期的・継続的な関わりを行っていくにあたっての、基礎研究として位置づけられるものである。以下、本活動を実施しての様子、学生のレポートをはじめ、

協力学生へのアンケートや、施設職員への聞き取りを行った結果について報告する。

4-1. 地域包括支援センター職員の講話を聴いての感想

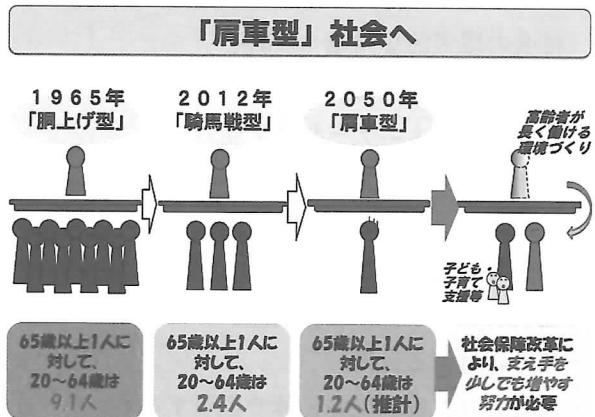
11月7日(金) 60名参加 (F1年9名 F2年21名 L1年9名 L2年21名)

「安心・安全に暮らせる地域づくりに向けて～地域包括ケアシステムの概要と取り組みの実際について」というテーマで、質疑応答も含め60分の講義が行われた。

講話の項目は(表2)のとおりである。

(表2)

| 講話の項目 |
|----------------------|
| 1. 年を取ったらどうなるの |
| 2. 一人で抱え込んでいませんか |
| 3. 地域包括支援センターの紹介 |
| 4. 世界で一番長寿国 日本 |
| 5. 担当エリア人口と高齢化の現状 |
| 6. 認知症について(行方不明者一人万) |
| 7. 地域で暮らし続ける |



(図1)

学生からは、短大周辺地域の高齢化率の高さに「驚いた」という感想が多く聞かれた。長崎市の高齢化率26.9%に対して、長崎市小島・茂木地域包括支援センターの担当エリアの高齢化率が31.9%で、2025年には40%になることが予測されているとの説明がなされた。さらにこのエリアには高齢者の単独世帯が多いところがあり、長崎市の平均が54.4%に対し74.7%の地域があること、浜の町に近い住宅密集地での高齢者の独り暮らしが増加している現状と、昨年1年間の全国の認知

症の高齢者の徘徊による行方不明者が1万人いたことなどについて、具体的な数値を示しながら説明がなされた。終了後、予定した時間を超えて、多くの質問が学生よりなされた。

講義後の課題として作成させたレポートでは「高齢化がすごいスピードで進んできており、1965年肩上げ型のころから比べると本当に急速に移行してきていて、今後の高齢者に対する対応が求められていると思いました。四人に一人が認知症・または予備軍なのでたくさんの高齢者の方が安心して暮らせる社会整備が大切だと思いました」(図1参照)と高齢社会となっていることに驚き、認知症の方が多くなってきてることでの課題を感じている。また、「挨拶するなど小さいことからはじめ、交流の輪を広げる」といったことをこれからの自己の課題に挙げている学生も多かった。また、「認知症について知らない子供が多いので道徳の時間に入れもらいたい、地域包括ケアをもっとわかりやすく広めてほしい」という意見もあった。原因となった少子高齢社会の解消に向けて「少子高齢化ということで高齢者を支えていくためには子供を増やしていくかなくてはならないと感じた、そのためにも女性の働きやすい社会が大切なんだと思いました」ということも挙げられていた。

学生のレポート内容については、「現状についての問題提起」、「理解したこと」、「今までの反省点」、「自己の課題」、「自分が考える提案」の5項目に分類・整理した。(文末資料1-1参照)

4-2 交流会の実施

12月19日(金) 学生26名(F2年生19名、L2年生7名)と、教員4名が施設を訪問し、「長崎女子短期大学 地域交流企画～心も身体もリフレッシュ～」と題した交流会を実施した。参加した利用者は、デイサービス利用者、ユニット型ショートステイ利用者、グループホーム入居者、ケアハウス入居者合わせて30名ほどであった。学生の挨拶に始まり、クリスマスのうた、クリスマスリース折り紙、フラダンス、新年に向けて折り紙で作成した絵馬に抱負を書き、最後に「お正月」のう

たを歌った。

交流会では4～5人のグループに分かれ、折り紙などを作製しながら、お正月の思い出などを語ってもらい、笑顔があふれた交流会となった。

(写真1～5参照)

12月26日(金)交流会の一週間後、担当教員が施設を訪問し、職員に感想を伺った。職員より、デイサービス利用者が「先週の交流会は良かった」と言っていたことや、学生の企画した内容をとても喜んでおられたという感想を聞くことが出来た。また、次回の要望も伺うことが出来た。

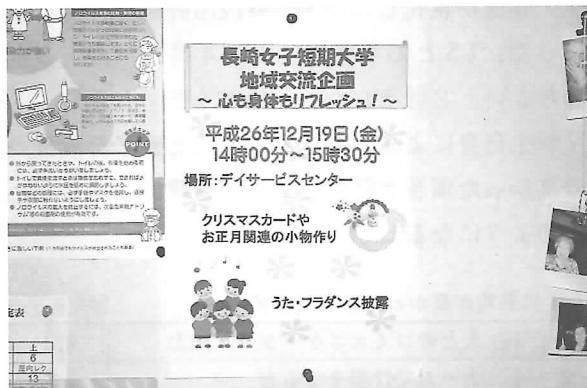


写真1 施設掲示板に貼り出された学生の作ったポスター



写真2 挨拶する学生



写真3 クリスマスリースを作る様子

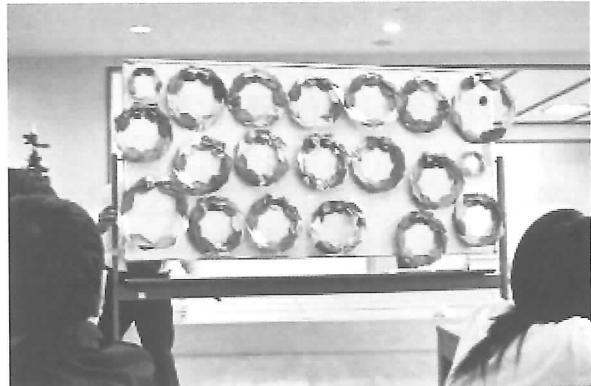


写真4 出来上がったクリスマスリース



写真5 フラダンスの様子

4-3 学生の学び—レポートの内容から—

ここでは、交流会実施後に学生たちに記入作成してもらったアンケート結果から、本企画を通して学生が何を学び、学生自身のなかでどのような変化があったと実感しているのかを確認していく。

まず、学生たちは利用者とコミュニケーションをとり、相手のことを知ることによって相手を理解したことに喜びを感じている。

学生1・・・私が関わった利用者さんは、「一緒に折り紙折りませんか」とお誘いしても、「よか、わからん」「しません」など返答され、少し拒否がある方でした。ですが、私が折り紙を折っていると見よう見まねに折ってくださったり、歌を歌う際は手拍子と一緒にしてくださいました。また、「お正月」では、知っている歌だったのか、なつかしそうに歌われる姿を見てとても嬉しくなりました。

また、下記のような報告からは、利用者に説明がうまくできなかったことや利用者とのコミュニ

ケーションにおいて沈黙があったことに対する戸惑いが伺われる。そこで反省からか、改めてコミュニケーション能力を課題に挙げた学生が多くいた。

学生2・・・折り紙の折り方をうまく説明できなかつたので、もっと分かりやすい言葉や、一緒に折ってあげたりしてわかりやすく教えることが出来ればよかったです。また話題がなくなると、話が途切れてしまったり、何を話せばいいのかわからなくなつたので、相手の話を聞き出して話を膨らませられるようコミュニケーション能力をしっかり身につけることが今後の課題です。

Fの学生は本企画を通して、(これまでの5回の施設実習を含めた)2年間の学びを振りかえり、Lの学生がコミュニケーション場面で戸惑った様子を見せるなか、自分たちが比較的スムーズに対応できたことで、改めて自信を深めたようである。一方、Lの学生にとっては、ほぼ初めての施設での交流経験であるにも関わらず意欲的に取り組む姿勢が見られており、その様子はFの学生にも良い刺激となったようである。両専攻の学生がお互いの良いところを認め合う記載も多くあった。2つの専攻が共同した、プロジェクトとして取り組むことにより人間関係形成力やコミュニケーション能力を向上させることの重要性に気づいている様子が感じられる。

学生3・・・利用者様との関わり方を約2年間学んできて、本当に、それが身についているのか不安になっていましたが、他専攻の方のフォローに入った時に、ある程度、うまく、コミュニケーションを図る事が出来る様になっており、自分の成長を感じる事が出来ました。

学生4・・・今まで、他学科との交流はほとんどなく、今回実際に体験することで、介護福祉の人と仲良くなることができたと思います。また、専門的に学んでいる人と共に活動することで、直前まで不安だったのですが、とても心を落ち着かせて交流ができました。

学生5・・・他職種と関わる他、他部署と関わ

り、1つのプロジェクトを動かす練習だったと思いました。グループ構成員同士の信頼関係を最初に築き、アイスブレーキングを行うことがレクリエーションの第一段階と繋がる事を学びました。

4-4 地域貢献アンケートの結果から

アンケートはF24名、L7名の学生を対象に実施・回収した。

アンケートは17項目について、学生が自分自身について、今回の地域交流活動を通して知識・技能・態度が変化したかを、5段階評価でつけてもらった。(5とても高まった、4高まった、3変わらない、2低下した、1ひどく低下した)

学生自身による、変化があったと感じた度合いの高かった項目と低かった項目を順に並べると、次のようになる。

| 評定値平均が高かった項目（2F） | | 評定値平均 |
|------------------|------------------------|-------|
| 1 | i. 人とのコミュニケーション能力 | 4.1 |
| 2 | j. チームで仕事をする力 | 4.0 |
| 3 | a. 地域活動・地域福祉に対する興味関心 | 4.0 |
| 4 | g. 社会の現実的な問題への関心 | 4.0 |
| 5 | p. 地域のことをもっと知りたいという気持ち | 4.0 |
| 6 | m. 最後までやり抜いた達成感 | 4.0 |

| 評定値平均が高かった項目（2L） | | 評定値平均 |
|------------------|----------------------|-------|
| 1 | i. 人とのコミュニケーション能力 | 4.6 |
| 2 | j. チームで仕事をする力 | 4.4 |
| 3 | g. 社会の現実的な問題への関心 | 4.3 |
| 4 | l. 自分で考え、行動する力 | 4.3 |
| 5 | m. 最後までやり抜いた達成感 | 4.3 |
| 6 | a. 地域活動・地域福祉に対する興味関心 | 4.1 |

| 評定値平均が低かった項目（2F） | | 評定値平均 |
|------------------|-----------------------|-------|
| 13 | n. 自分に対する自信 | 3.5 |
| 14 | e. ひとつの問題を深く探究する態度 | 3.5 |
| 15 | l. 自分で考え、行動する力 | 3.5 |
| 15 | o. 表現力(文書表現力／体で表現する事) | 3.5 |
| 17 | k. リーダーシップ | 3.4 |

| 評定値平均が低かった項目（2L） | | 評定値平均 |
|------------------|------------------------|-------|
| 13 | c. 地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養 | 3.7 |
| 13 | h. 一般的な常識や礼儀・マナー | 3.7 |
| 14 | e. ひとつの問題を深く探究する態度 | 3.6 |
| 15 | n. 自分に対する自信 | 3.4 |
| 16 | d. 職業や進路選択への方向づけ | 3.3 |
| 16 | k. リーダーシップ | 3.3 |

今回実施したアンケートでは、その対象学生数が少なく、またFのアンケートは交流会当日に欠席した学生の分も含めているため、統計的に十分な有効性が保てているかという点については一定の留保が必要である。しかし、ここでのアンケートの結果から、少なくとも大まかな傾向としては地域交流活動を実施することにより、①人とのコミュニケーション能力、②チームで仕事をする力、③地域活動・地域福祉に対する興味関心、④社会の現実的な問題への関心、⑤最後までやり抜いた達成感の5つの項目に関する、学生の意識が高まったことは読み取れると言ってよいだろう。

①人とのコミュニケーション能力においては、利用者が高齢であり、聴力や認知能力などに障害がある方が少なからずおられるなかでの活動を通して、学生たちはその能力が高まったことを実感している。

②チームで仕事をする力については、交流会の準備段階から、各個人間・各専攻間で得意な活動分野を活かしつつ、学生間でのコミュニケーションを行っていくことでその力の高まりを実感する機会となったと考えられる。また、地域包括支援センター職員による講義や、実際に高齢者との交流を行うことで③地域活動・地域福祉に対する興味や、④社会的の現実問題への関心も高まったと考えられる。地域交流活動を行うにあたり、まず地域包括ケアシステムについて学ぶことにより、交流の前提として、自分自身が地域住民の目線に立った見方が出来るようになり、また、少子高齢社会の問題意識を持つことができたことが大きい。地域福祉への興味を持つきっかけとなる機会を提供し、学生が主体的に地域について学ぶことは、最終的には自分が所属するコミュニティにおいての一住民としての自覚を持たせることにもつなが

ると考えられる。

⑤最後までやりぬいた達成感も高まっている。リーダーのもと、ある程度期間を持って取り組んだことが影響したと考えられる。

また、今回、両専攻とも最も評定値の低かった項目としてリーダーシップが挙げられる。これについてはリーダーが専攻の代表者3名のみであり、大半の学生においては、主体的にというよりもリーダーの指示に基づいて動くという意識が働いたためと思われる。もっと少ない人数でのグループ編成などを行えば、より多くの学生がリーダーシップを発揮できるかもしれない。あるいはグループ全体の力を高めるための動きを学ぶことに重きをおくなれば、必ずしもすべての学生にリーダーシップを求めるのではなく、フォロワーシップを発揮しうる環境整備に取り組めるような方向での支援も考えられる。アンケート項目の設定についての見直しも、今後の課題となる。

結果的に、今回の授業実施のプロセスから得られた様々なデータや、関係者から直接間接に寄せられた意見・感想は、本研究の今後の方向性をさらに具体的に模索していくために十分に有意義なものとなった。

同時に、今回の地域交流活動は、初めてであつたにもかかわらず、学生においては多くの学習効果をもたらしている。まず、F・L双方の学生が、チームで働くことについて学んでいることである。たとえば、アンケートの自由記載に、「自分たちと違う発想があった」「同じ短大でありながらほとんど交流がないので、もっとほかのコースと協力して何かを実施することはとても良いことだと思いました」と書いていることからも読み取れる。しかしながら、Fの学生の自由記載には2つの専攻で取り組んだことに対して、「打ち合わせが1回しかなかった」「どちらのコースもきちんと授業扱いにし、意識の高さを同じにすべき」といった指摘があった。これについて確認しておくと、まず、Fでは本企画を授業の一環として実施した。一方、Lの学生は自由参加であったため、専攻間で、参加学生のバランスの悪さや、直前での参加人数の変更などの問題が生じた。また、交流する

対象施設の選定や内容に関しては、教員主導である程度決定したものを、学生に提示するという形をとったため、「もう少し内容を考えたほうがいいと思う」「もっと利用者も一緒に踊ったり、体操する内容」を希望するといった声が上がるなど、企画段階から取り組みたいという意欲的な様子がうかがわれる。

Lの学生は今回の企画に参加することで「地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養」が足りないと感じるきっかけになった。

意外だったのは「一般的な常識や礼儀・マナー」が低かった点である。しかし、自由記述欄を読み解くと、学生自身は秘書関係科目を学んだこともあり、ビジネスの場における礼儀やマナーについてはある程度身に付いていると感じていたが、高齢者との交流を経験することで、場合によっては敬語を使わない方が良いことを学んだ結果での評価であると推察できた。

5.まとめ

今後の課題、研究の発展可能性として、以下のことことが挙げられる。

- ① 学生の学習方法の改善・再検討（学生の参加により重点を置き、学生が主体的に学べるアクティブラーニングを意識した取り組み）
- ② 複数回実施することで、課題の克服までのプロセスを経験させることが可能
- ③ 学内連携のあり方を改善・再検討（F・Lだけでなく、本学における学科・コース全体が、それぞれの強みを生かした協力のあり方が検討できないか）
- ④ 交流する地域住民を限定しすぎない（高齢者だけでなく様々な世代、状況を含めて検討していく。児童、障害者なども当然対象になり得る）
- ⑤ 交流の「場」「形態」を限定しすぎない（高齢者施設だけでなく、本学、その他の学校や地域の公民館、その他様々な協力施設等。たとえば聞き取り調査等を実施するであれば、個人宅訪問も検討可能）
- ⑥ 年度初めの計画として、学生に周知し、計画的に実施させる。

⑦ ボランティアではなく、授業として位置付ける。

今回、2つの専攻共同で地域交流活動を企画・実践することにより、参加した学生においては

①人とのコミュニケーション能力、②チームで仕事をする力③地域活動・地域福祉に対する興味・関心④社会的の現実的な問題への興味関心⑤最後までやりぬいた達成感、といった項目での自己評価を高めることが出来た。

木村は「大学をソーシャルキャピタルの場としてとらえ、有効に活用していくことで地域全体が大学のキャンパスとして機能することが可能となる」³⁾と言っている。今後、地域全体を学習の場とした取り組みができるよう精進したい。

この活動は今後、地域との長期的・継続的連携を見据えた実践・教育・研究の端緒として位置づけられることとなる。今後の活動の展開においての地域貢献の意義についてもさらに考える必要がある。

謝辞

本研究をまとめるにあたり、ご協力いただいた長崎市小島・茂木地域包括支援センター及び高齢者施設の皆様に感謝いたします。

引用文献

- 1) 中教審短大ワーキンググループ(平成26年8月6日)
短期大学の今後の在り方について
- 2) 「武藤玲路：自己点検・評価における在学生調査の活用事例 短期大学コンソーシアム九州紀要2013年」を参考に作成
- 3) 木村佐枝子：大学と社会貢献 学生ボランティア活動の教育的意義 P39 創元社2014年

参考文献

- 1) スーザン A. アンブローズ他：大学における学びの場つくり 玉川大学出版部 2014年
- 2) 船守美穂 他：主体的学び反転授業がすべてお解決するか 主体的学び研究所 2014年
- 3) 小泉京美：キャリア教育で人間力が伸びる 東方通信社 2014年
- 4) 中尾健一郎：地域交流行事の効果について 長崎短期大学研究紀要 2013年
- 5) 合津千香：介護福祉学生が「地域」について学ぶ意義と課題 松本短期大学紀要2013年

[資料：1-1]

地域包括支援センターの講義を聞いての感想（抜粋）

現状の問題提起

F

- ・少子化対策、出産率を上げるために社会の取り組みが大切
- ・数か月前に同じ地域の私のうちからすぐ近い方が孤独死されていた。小学校のころよりも地域との関係性が薄くなつたと感じた
- ・高齢者問題、子育て問題、障害者問題などそれぞれ別々に考えていくのではなく地域の中で相互的に取り組む必要があると考える。地域によっての格差、例えば市街地であれば居住地域に病院があり問題はないと思いますが、入院など地域では難しいケースも多いのではと思います。そのような地域差に対してどのような取り組みがあるのか地域の特徴を生かしながら問題点を解決することが課題となるのではと思いました。私の住んでいるところでは相談に行きやすい場所は地区が違い、担当地区的地域包括支援センターは遠い
- ・高齢者の独居世帯が装荷している現在で徘徊して行方不明者がおられるこを聞いて怖いと思った。母に認知症があり、先々徘徊症状が出た時を想定すると他人事ではないと思った
- ・今後10年先はもっと高齢者が増えるということで施設に入らず、孤立して過ごす方も多いと思うので地域での活動を増やし、家の中に引きこもっている高齢者を地域全体で支えるような場を作らなければいけないと思う。
- ・高齢化がすごいスピードで進んできており1965年胴上げ型のころから比べると本当に急速に移行してきて今後の高齢者に対する対応が求められていると思いました。四人に一人が認知症・または予備軍なのでたくさんの高齢者の方が安心して暮らせる社会整備が大切だと思いました。

L

- ・講義を聞いて結構前から高齢化・少子化とテレビやニュースでいわれていてどこか人事で自分には何もできない、国でどうにかしてもらおうしかないとと思っていたけど、話を聞いて私にもできることがあるのではないかと思いました。
- ・今回の講義を聞いて少子高齢化ということで高齢者を支えていくためには子供を増やしていくかなくてはならないと感じたそのためにも女性の働きやすい社会が大切なと思いました。
- ・日本人の4人に一人が高齢者となった今、社会全体が協力して高齢者を支えなくてはいけなくて、その最たるもののが地域包括ケアシステムであると思います。
- ・今の日本の現状を見直し、それに対する対策が必要であると思う、一刻も早く行動していかなければならぬ。地域の現状を知って人事では済まされないと実感させられました
- ・日本は長寿国であることは良いことだとは思いますがその分福祉環境や認知症の問題を抱えていることが改めて分かった、また小島・茂木地域の高齢者の状況を知ることが出来てよかったです。三人に一人が65歳以上ということにとても驚いた。認知症の人が1万人以上行方不明とは地域包括ケアがまだ穴だらけだと思う、仕組つくりが課題

理解したこと

F

- ・地域包括ケアシステムはあまりイメージできなかつたが、話を聞いて大切な役割を担つていると学んだ
- ・限界集落は山間部のみの話と思っていたが都市部に近い地域でも住宅過密地域では独居世帯が多くさまざまな生活上の困難さを持ちながらも、地域住民が気づいたり協力しながらもなじみの環境で暮らしたいというニーズが住民にある事を知り、気づいたり協力したりすることで長い間自分らしい生活を実現できることを知つた
- ・長崎市小島・茂木地区の高齢化率が長崎市平均高齢化率26.9%に対して32%と非常に高く、同時に単独世帯も長崎市平均より高い割合となっており地域包括ケアシステムの重要性を実感した

L

- ・今回の講義で初めて地域の様々なことに取り組んでいることを知つた。お年寄りの方が安心して暮らしていけるような地域のみんなで支え合つていくことが大切だということがわかりました
- ・今後さらに高齢者の方が多くなつていき、家族だけでは、介護することが出来ないようになってくるというのを改めて知りました。行方不明者が一万人いるとは知らなかつたです。
- ・高齢者やその家族の方たちの相談するセンターがあるというのをあまり知らなかつたので、今日詳しく理解することが出来てよかったです。
- ・地域包括システムは地域全体で高齢の方をサポートするのすごく良いシステムだと思いました。家族も仕事と介護と自分の生活すべてを両立していくと高齢者側も介護する側もストレスのたまる生活になつてしまうので、地域全体で助け合つていくのはとってもメリットの多いシステムと思いました。
- ・講義を聞き高齢者的人がどれだけいてどのような生活をしているのかわかりました。すごく心に響く内容でした
- ・日本の少子高齢化は進む一方でこれから社会を支えていく立場になる私達も大きな問題であるということを改めて

実感しました。社会の担い手であるわたくしたちが高齢者を理解したうえで地域全体で支えていくことが大切だと思いました。

- 支援事例を見て認知症とアルツハイマー型認知症の大変さを感じた、物忘れが激しくなる程度しか知識がなかったので不安・幻覚・意欲がなくなったりするのだと知り、もし自分や家族が鳴るかもしれないと思うと怖いと思いました。地域の助け合いの大切さを感じました。

今までの反省点

L

- 私はふだんこのような話を聞くこともなく、お年寄りと地域のかかわりというのも考えたことがありませんでした。
- 高齢化が進んでいく中で今までは自分の家族にしか目を向けておらず、いざれば自分が介護をしてあげなければと思っていましたが、地域全体で支え合っていくというこの地域包括ケアシステムを今日知り周りと助け合いながらサポートしていくことに考えが行かなかったなと思いました。
- 一人暮らしで生活困難なお年寄りがいる中私は何一つサポートをすることが出来ていませんでした。

自己課題

F

- 微力だけど無力じゃないという言葉を忘れずいろいろなボランティアに参加し、地域貢献したい
- 挨拶など小さいことからはじめ、交流の輪を広げる
- 高齢者がどのようなことに困っているのか、不安に思っているかをしっかり知ったうえで、適切な介護ができるよう学校で学びたい。地域の行事にも積極的に参加しなければ
- 私達もひとりでできることもあると思うのでゴミひらい等、そういう小さいことから地域を守り、すこしずつよい地域にできるようにしていきたい。
- 一人でも多くの方に地域包括ケアシステムのことを知ってもらう

L

- 私はこれから認知症についても理解を深め、普段の日常から高齢者に対して今まで以上に気を配っていこうと思いました、認知症の方が住み慣れた場所で安心安全に生活し続けられるような地域つくりに協力できればいいなと思いました。そして機会あれば高齢者の方と話をしたり何か作ったりなど楽しい時間を過ごしたいと思います。
- 地域の助け合いで自分にできることはしていけたらよいと感じました。現在高齢者の方々と関わる機会がないのでボランティアに参加するなどして積極的に行っていこうと思います。
- 話を聞いていて今までできていたことが出来なくなるのはつらいと思った。もし自分が高齢者の立場だったら周りの人たちにやさしく支えてもらえるとうれしいので自分もそうしていきたい。たとえ微力ではあっても支えたいという気持ちを大切にしてこれから気にかけたい
- 自分の周りにいる高齢者の方からコミュニケーションをとったり挨拶や困っている人を見つけたら常に思いやりの心を持って接していきたいと思いました。自治会などの活動にも進んで取り組んでいきたいです。

自分が考える提案

F

- 女性が仕事しやすい、復帰率をたかめるために託児所のある施設はとても魅力的、高齢者の住みよい環境にするために地域との交流を増やし、グループホームを作る
- 認知症について知らない子供が多いので道徳の時間に入れてもらいたい。地域包括ケアをもっとわかりやすく地域に広めてほしい
- 地域で集まる機会が減ったことやあっても挨拶しなくなったりしているので交流する場がもっと増えればいいなあと思う
- 支所や公民館と地域包括センターが別の場所にある事が多いようですが不便だと思います、災害時の避難なども含め、同じ場所のほうが一元化されてよいように思います。そしてこれに医療が加わり教育や文化活動などが加わる地域活動が私の理想です。
- 散歩をしている時に高齢者が歩いていたら挨拶したり、様子をうかがったり、階段が多いので荷物を持っている高齢者の方の手助けをしたり、高齢狩りとが高い地域の近くに住んでいるからこそ微力ですが必要なことと思いました。ボランティアを増やし高齢者の人たちが楽しめる場所を作っていければいいなあと思います。
- 小学生から短大生まで認知症について理解することで地域全体で、高齢者の方を支えていくことも大切だと思いました
- 自治会に参加することは地域の活性化につながることが出来ると感じました。施設と本人だけではなく、自治会に入つておけばどういうことをすれば介護予防になるとかを伝えて地域で取り組むことが出来るのではと思いました。

L

- ・地元は地域活動が活発でお年寄りの方々の顔を良く知っていました。知らない土地に来てから地域の活動に携わっていないのでもっと関われる機会があるとよいなあと思います。
- ・私の祖母は70歳過ぎても元気で車の運転や畠仕事をしているのでずっと元気でいてほしいと思いました。地域の高齢者の方とお話をしたり、スポーツやイベントを行えば高齢者の方の脳の刺激となってほけや認知症の予防になると思うのでもっとお年寄りの方と交流を持てるようにしたいと考えました。
- ・高齢者の方々とコミュニケーションを取り合っていくべきではないかなと思ったお互いに心を開いて関わり合っていけば何かあった時の支えになると思います。
- ・私は祖母がいるのですが一人暮らしなのでもし何かあったらと思うといつも心配です。けれど太極拳という趣味を見つけて友だちもたくさんいるようなので生き生きしているし何かあってもその人たちが助けてくれると思います。高齢者が楽しむことが必要

資料1-2. 交流企画を実施してのレポートから（抜粋）

1. 参加した利用者の様子についての気づき

F

- ・私がお話しさせていただいた利用者様の中には、フラダンスをされていた方がいらっしゃり、フラダンスのお話を聞く事が出来ました。また、リース作り、絵馬作りの際には、「目の見えんくて・・・」とおっしゃる方がいらっしゃり、自主的に参加していただくことが難しかったです。そのため、無理にリース作り、絵馬作りに参加していただくのではなく、コミュニケーションを図り、一緒に会話を楽しんでいただける様に工夫しました。
- ・デイサービスを利用されている96歳の方で、とても元気で自分のことを沢山話して下さる方がいた。私たちがフラダンスを踊ると、自分も昔は着物を着て踊っていたと教えてくれて写真を見せてくれて、また踊りたいとおっしゃっていた。少しの時間しか話す時間はなかったけれど、したいことなど聞く事が出来てよかったです。踊りの話をされている時はとても楽しそうで、もっとお話ししたかった。
- ・ケアハウスで住んでいる方のテーブルでした。近くに家はあるのだが、独居なのでここに来ました。と言われていました。食事の管理もきちんとしていてバランスが良く安心して暮らしているとのことでした。「おしゃべりも出来るし、ここに来て良かったよ」と笑顔で話されていたので安心しました。1人の方は、以前、フラダンスを17年間習っていて今日は楽しかったと言わされていました。
- ・予想より男性の姿が多く見られ、残存能力も比較的維持されている方が多かったので、リースの折り紙が複雑だったが、難なく完成する事ができた。話をすると、認知症の症状や、こだわりが強く見られる場面が少し出てきたので、話し方や、折り紙の進め方に気をつかい、利用者様に一番に楽しんでもらえるように配慮した。
- ・私が関わった利用者さんは、「一緒に折り紙折りませんか」とお誘いしても、「よか、わからん」「しません」など返答され、少し拒否がある方でした。ですが、私が折り紙を折っていると見よう見まねに折ってくださったり、歌を歌う際は手拍子と一緒にしてくださいました。また、「お正月」では、知っている歌だったのか、なつかしそうに歌われる姿を見てとても嬉しくなりました。

L

- ・私が担当した班では男性が二人いましたが、折り紙や歌をうたう際、できる事の差が広く、同じ施設を利用する人でも、できる事に差がある事もあるのだなあと思いました。
- ・私が担当したテーブルでは、明るいおばあちゃんたちでたのしかったです。おばあちゃんたちも積極的にツリーを作ってくださいました。作ったあとは「これ欲しいな！」などと言っており、持ち帰りますするほど気にいったようでした。
- ・みなさんお元気で、とても楽しんで参加してくださっていました。私がお話させていただいた利用者の方は、デイサービスには、毎日通っているとおっしゃっていました。友だちもいるし、楽しいからだと教えていただきました。
- ・ケアハウスを利用されている90代の女性の方と一緒に交流しました。その方は目が悪いとおっしゃっていて、歌の歌詞が書いてあるプリントの文字が見づらそうでした。

2. 他専攻のチームメンバーとの関わりでの気づき

F

- ・ビジネス専攻の学生さんは、デイサービス利用者様がどういう方なのかわからない部分があったと思います。次に機会があれば、簡単にどんな利用者様がいらっしゃって、どんなふうにコミュニケーションをとればよいか説明すれば、もっと交流しやすくなるのではないかと思います。
- ・普段から、他専攻と関わる機会が少ないため、一緒に、楽しく交流できるか不安もありましたが、自分たちに出来る所、出来ない所と、うまく助け合いながら、交流する事が出来ました。
- ・お互いに、気つけたことが沢山あった。利用者に優しく対応していた。戸惑った時は、お互いにフォローできたと思う。

- ・チームメンバーに他専攻はいませんでした。福祉の勉強をしていない子たちってゆうのは利用者との関わり方が難しそうにしていて困った顔してる子がいました。勉強（実習）することでこんなに違ひができるのかとびっくりしました。
- ・他専攻の人と一つの事をする事で皆で協力する事の大切さに気づく事が出来た。
- ・せっかく被服室で事前に交流できて当日を楽しみにしていたのにまったく知らない人に変わり、お互いチームメンバーとして会話もなく残念でした。
- ・（Lの学生は）真剣に手話の練習をしてくれた、Fが（フラダンスで）抜けた後も、利用者様と積極的に話をしていた。
- ・（Lの学生は）普段高齢の方と関わることはないと思いますが、そんなことを思わせないくらい、利用者さんと話されていて、利用者さんも楽しそうだなと思いました。普段話したこともない人たちでしたが、協力し合い、作品を完成することができた。

L

- ・介護福祉専攻の人達の施設利用者に対する話し方や接し方を間近で見ることができ勉強になりました。
- ・やはり、介護福祉専攻の人は専門としているので、私が困っている時に横からスッと手助けしてくださいさったり、とても頼りがいがありました。また、介護福祉専攻の方が進んで利用者に声を掛けていたので、私も声を掛けやすかったです。
- ・親切感（親近感）を出す為か、利用者さんと話すときに、長崎弁で話していた。私達の専攻では敬語について学んでいますが、お年寄りの方と話す時には少しくだけた口調で話するのも、身近かに感じていただく為に必要だと感じました。
- ・福祉の人達とは関わる機会がほとんどないので、日頃どのような活動をしているのか知るよい機会になりました。
- ・介護のメンバーの人はみんなやさしく、わかりやすく説明していくよかったです。自分のテーブルでは1人、目の見えないおばあちゃんがいたため、その方にやさしくお世話をされる介護専攻の方を見てさすがだなと思いました。
- ・やはり介護福祉専攻のみなさんは、私たちのお手本となるような対応をされていました。顔の表情から話し方までとても柔らかくて、安心するような対応の仕方だと感じました。
- ・利用者の方と話す時のスピードやフラダンスをしている時のアイコンタクトをしていた所が学ぶべき所だなと思いました。

3. 今回の交流を通して学んだこと

F

- ・リーダーとしての責任感や、自分の意見を話したり、クラスをまとめたりすることの難しさと同時に、終わった後の達成感を学びました。自分にできることを探して、行動したことが、人の役に立ったり、利用者様の楽しそうな様子を見ることに繋げることができてよかったです。
- ・利用者様との関わり方を約2年間学んできて、本当に、それが身についているのか不安になっていましたが、他専攻の方のフォローに入った時に、ある程度、うまく、コミュニケーションを図る事が出来る様になっており、自分の成長を感じる事が出来ました。
- ・私達は、介護について特別に勉強したことを実感した。若い同級生がとても頼もしく感じた。フラを見て、人を楽しませることの大切さを学んだ
- ・人まかせにするのではなく一人一人が短大生であることを忘れずに活動に参加する事の大切さを学んだ。
- ・1年生の初めて実習に行く前にこのような体験ができていれば高齢者との関わりができる地域交流の学習がもっと早くから意識できていたと思います。実習1もスムーズだったと思う。地域交流という感じはあまりなかった。この時期だとFとLの差が出てしまう。
- ・デイサービスやケアハウスで生活している利用者様がどんな方々か、日中どのような所で過ごしているのかを垣間見られて良かった。フラダンスや学生と交流したりする姿が、非日常の事で刺激になり、とても楽しみにされている事を感じた。うまく見せようとするより、楽しんでもらえる様に、目を見て、伝えようとする心を表現する事の大切さを学んだ。
- ・歌や折り紙、フラダンスなどをしに、施設に行くのは初めてでしたが、自分たちがただするのではなく、相手に楽しんで頂けるかにはどうしたら良いのか、考えていく必要があったなと思いました。また、交流を通して学んだことは、かた苦しすぎるのもいけないが、なれなれしくいくのもダメだなと思った。
- ・他職種と関わる他、他部署と関わり、1つのプロジェクトを動かす練習だったと思いました。グループ構成員同士の信頼関係を最初に築き、アイスブレーキングを行うことがクリエーションの第一段階と繋がる事を学びました。

L

今回の交流を通して学んだことは、私たちは簡単に出来ることでも、お年寄りの方々には難しかったり作業スピードが遅いということを学びました。お年寄りの方、それぞれに合わせて寄り添うことがとても大変でしたが、歌と一緒に歌う時は、とてもパワフルに歌っており、一緒に歌っていて元気をもらいました。日頃からこのような交流を持つことが大切だと思いました。

- ・今まででは、他学科との交流はほとんどなく、今回実際に体験することで、介護福祉の人と仲良くなることができたと思います。また、専門的に学んでいる人と共に活動することで、直前まで不安だったのですが、とても心を落ち着かせて交流ができました。
- ・普段友人と話す時のスピードで話してしまうと上手く聞き取る事が出来ない場面もあったので、お年寄りの方と話す時には、少しゆっくりとした話し方が良いという事を学びました。そして、大きな声ではきはきと笑顔で話すことが大切だと気づきました。
- ・自分とは年齢層が全然ちがう相手との会話だった為、クラスメイトとはちがった話題で新鮮でした。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんたちと交流して思ったのは、友だちと話す感覚ではダメだということ。大きな声ではなさいときこえなかったり…。みぶりてぶりを交じえて交流することや積極的にはなしかけることも大切だと思いました。
- ・何事にも当てはまるのですが、経験することの大切さを改めて学びました。これまで、高齢者の方と接する機会というのはなかなかありませんでした。介護福祉専攻の方たちを見て、経験の違いを感じました。しかし今回、このような貴重な機会を頂き、それを逃さず参加できたこと、本当に良かったと思いました。

4. 今回の交流を通しての反省点、自己の課題をあげてください

F

- ・先生方と、連携をもっととるべきだったと感じました。プログラムを前日に変えたりと、もっと他のリーダーと話しあって余裕を持って準備ができたらよかったと思いました。
- ・手話やおり紙の練習期間が少し短かった様に思いました。また、自分のコミュニケーション能力も、まだ低いと感じました。考えながら話す事の難しさを改めて実感しました。
- ・折紙の練習をもっととするべきだった
- ・ビジネスの人達とコミュニケーションをもっと図っておきたかった
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・自分で考え、行動する力がついていなかった
- ・地域活動や地域福祉について、市役所や地域包括センターなどに行ってみたいと思います。
- ・地域交流企画といつても、施設へのボランティア訪問をする事が決まっていたので、何か自分なりに工夫する事は、施設に行って、利用者様と交流したりする時だけだったが、自己満足にならないよう、相手の反応を見て、対応できる力を身につけたいと思った。また、東小島地区の独居老人世帯が多いと聞き、行政や介護サービスの手が回らない困り事を解決できる事ができないか、インフォーマルなサービスを積極的にやっていく機会を見つけたいと思う。

L

- ・折り紙の折り方をうまく説明できなかつたので、もっと分かりやすい言葉や、一緒に折ってあげたりしてわかりやすく教えることが出来ればよかったかなと思います。また話題がなくなると、話が途切れてしまったり、何を話せばいいのかわからなくなつたので、相手の話を聞き出して話を膨らませられるようコミュニケーション能力をしっかり身につけることが今後の課題です。
- ・全体的に力を抜くことなく全力で楽しむことができました。しかし、「書くことができない」といったマイナスな言葉を聞いた時にどう接するべきか分からず、ただひたすらに笑顔でいることしかできませんでした。その人が何を求めているのか考えることが課題だと思います。
- ・利用者さんと話している時に何度も同じことを話していることに対してのリアクションが上手く取れていなかつたように感じました。また、時々、沈黙が出来てしまつていてこれから生活していく中でもっとコミュニケーション能力をみがいていこうと思います。
- ・同じ班の人にたよりきつてしまつたので、もう少し自力で頑張らなくてはいけないと感じました。
- ・もっと自分が積極的に話しかけたり、わかりやすくおりがみをおしえたりすればよかったと思いました。自分がいっぱいいっぱいになりすぎてアタフタしすぎてしまつたので気持ちに余裕をもって取り組みたいと思います。
- ・利用者の方が、話をしたくなるような話題作りをできませんでした。また、ずっと真横から話しかけていて、あまり目を合わせることができていませんでした。今後、高齢者に限らずとも、人とコミュニケーションをとる際、どうしたら相手が喜んでくれるのか、安心を得れる（与える）ことができるのか、反省ではなく、コミュニケーションの中ですぐに改善していくような力を身につけるよう、もっと多くの人と、関わっていこうと思います。
- ・事前準備の時の学ぶ姿勢。

地域交流活動を通しての学生の学びと課題

設問1. 以下の知識・技能・態度について、今回の地域貢献事業を通して、あなた自身に変化があったと思うものを5段階で評価してください。(※評価の理由やご意見を、【自由記載】欄にご記入ください。)

設問1 自己評価集計結果 (2F)

評定値

| | | 評定値 |
|----|------------------------------|-----|
| 1 | a. 地域活動・地域福祉に対する興味関心 | 4.0 |
| 2 | b. 地域活動・地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能 | 3.9 |
| 3 | c. 地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養 | 3.8 |
| 4 | d. 職業や進路選択への方向づけ | 3.7 |
| 5 | e. ひとつの問題を深く探究する態度 | 3.5 |
| 6 | f. 多様なものの見方を知って受け入れること | 3.8 |
| 7 | g. 社会の現実的な問題への関心 | 4.0 |
| 8 | h. 一般的な常識や礼儀・マナー | 3.9 |
| 9 | i. 人とのコミュニケーション能力 | 4.1 |
| 10 | j. チームで仕事をする力 | 4.0 |
| 11 | k. リーダーシップ | 3.4 |
| 12 | l. 自分で考え、行動する力 | 3.5 |
| 13 | m. 最後までやり抜いた達成感 | 4.0 |
| 14 | n. 自分に対する自信 | 3.5 |
| 15 | o. 表現力（文書表現力／体で表現する事） | 3.5 |
| 16 | p. 地域のことをもっと知りたいという気持ち | 4.0 |
| 17 | q. 地域ともっと関わりたいという気持ち | 3.9 |

設問1 自己評価集計結果 (2L)

評定値

| | | |
|----|------------------------------|-----|
| 1 | a. 地域活動・地域福祉に対する興味関心 | 4.1 |
| 2 | b. 地域活動・地域福祉に必要とされる専門的な知識や技能 | 4.0 |
| 3 | c. 地域福祉に必要とされる幅広い知識や教養 | 3.7 |
| 4 | d. 職業や進路選択への方向づけ | 3.3 |
| 5 | e. ひとつの問題を深く探究する態度 | 3.6 |
| 6 | f. 多様なものの見方を知って受け入れること | 4.1 |
| 7 | g. 社会の現実的な問題への関心 | 4.3 |
| 8 | h. 一般的な常識や礼儀・マナー | 3.7 |
| 9 | i. 人とのコミュニケーション能力 | 4.6 |
| 10 | j. チームで仕事をする力 | 4.4 |
| 11 | k. リーダーシップ | 3.3 |
| 12 | l. 自分で考え、行動する力 | 4.3 |
| 13 | m. 最後までやり抜いた達成感 | 4.3 |
| 14 | n. 自分に対する自信 | 3.4 |
| 15 | o. 表現力（文書表現力／体で表現する事） | 4.1 |
| 16 | p. 地域のことをもっと知りたいという気持ち | 4.1 |
| 17 | q. 地域ともっと関わりたいという気持ち | 4.1 |

※ 斜体・網掛けは評定値平均4.0以上

※ ゴシック太字は評定値平均3.5以下

※設問a～qについては

| | |
|---------|---|
| とても高まった | 5 |
| 高まった | 4 |
| 変わらない | 3 |
| 低下した | 2 |
| ひどく低下した | 1 |

として入力

[資料（地域貢献アンケート）：1-2]

設問2 a. 10月終わりに準備して12月に実施となりましたが期間はどうでしたか？

設問2 b. 今後取り組むとすれば、どれくらいの期間で取り組むとよいと思いますか？

(2か月 ・ 3か月～4か月 ・ 5か月～6か月 ・ 7か月～8か月 ・ 9か月から12か月)

設問2 自己評価結果 (2 F)

| | |
|-----|-----|
| 2 a | 2.7 |
| 2 b | 4.5 |

設問2 自己評価結果 (2 L)

| | |
|-----|-----|
| 2 a | 3.2 |
| 2 b | 4.8 |

※設問 a については 評定値

| | |
|--------|---|
| 長い | 5 |
| 少し長い | 4 |
| ちょうどよい | 3 |
| 少し短い | 2 |
| 短い | 1 |

として入力

※設問 b については 評定値

| | |
|--------|---|
| 2ヶ月 | 5 |
| 3～4か月 | 4 |
| 5～6か月 | 3 |
| 7～8か月 | 2 |
| 9～12か月 | 1 |

として入力

設問3. するとすれば、どんな内容を取り組みたいですか？自由に記載ください

設問4. a. 他のコースと実施するにおいてよかったですと思ったことをあげてください。

b. 他のコースと実施するにおいて不都合だった点があれば書いてください。

設問5. この活動についてのご意見、要望があればお書きください。